

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600912		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 御井つつじ苑		
所在地	福岡県久留米市御井町2011番地		
自己評価作成日	平成22年5月25日	評価結果確定日	平成22年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御家族、御本人の希望により苑内での看取りも多くなってきた。また、運営推進会議により地域との関係も深まり徐々に協力関係も出来つつある。最小限度の決まり事以外は、一人ひとりの思いにまかせ、一日一日穏やかにゆっくりと過ごし、生き生きと生活されるように支援している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

文教地区の閑静な住宅街に位置し、地域密着型のホームとして、積極的に地域交流へ取り組んでいる。自治会に加入し、ゴミ出しの監視や地域の清掃、行事等に参加したり、近隣の方よりお花をいただくなど、自然な形で地域交流が行われている。受診・送迎専任の職員を配置し、専門病院やかかりつけ医への受診対応をホームで担っている。これは、利用者・家族の生活に大きな安心感を与えている。家族には、ホーム便りと利用者の生活状況を知らせる手紙が毎月送られており、家族との関係に配慮している。月1度開かれるフロアミーティングでは、職員が自由に気づきや要望、意見等が言える会議となっている。今後、更なる地域との密な関係の構築と交流が期待できるホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年6月11日		

自己評価および外部評価票

ユニット名: 1階

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域への参加を含んだ理念になっている	平成18年度の介護保険の改正を受けて、再度、理念の見直しが行われている。見直しの際には、全職員の意見を収集してまとめており、地域密着を意識した理念の作成とケアへの取り組みがある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としても自治会に加入している。地域の清掃や缶当番にも利用者と一緒に参加している。利用者と地元の方との会話もでき、近所の付き合いが実感できている。	ゴミ出しの監視、地域の清掃や行事等への参加、近隣の方からのお花の差し入れ、子供神輿のホームへの来訪など、日常のかかわりを通じた交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも地域の人々に貢献出来るように認知症サポーター養成講座を全員受講した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を重ねる中で地域のかたの高齢者に対する熱心な思いが伝わり出来る限り皆様の意見を取り入れサービスの向上につなげている。	関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。地域行事や地域高齢者の情報を得たり、ホームでの避難訓練へのお誘い、看取りや災害時についての意見を頂くなど、意見交換・情報交換が活発に行われている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書提出は市役所担当者を訪問して現在の問題等を相談し、家族への対応の仕方、ポイント等を指導していただき改善にむけて取り組んでいる	運営推進会議時に、行政担当職員及び地域包括支援センター職員の参加が見られる。行政主催のグループホーム部会への参加や日常生活自立支援事業の利用などを通じて、行政担当者等との連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての苑内、苑外研修に参加し理解に努めている。日常支援の中で気になる行為があれば、職員同士注意し正しく理解する様取り組んでいる。玄関の施錠に関しては立地条件が悪く危険が伴うためそのことを御家族にも理解を得ている。	職員は、勉強会を通じて身体拘束について学びを得ている。ホーム立地上、リスク回避の為に玄関は施錠しているが、ホーム内は自由に行き来できる。また、ウッドデッキを新たに設置するなど、利用者に配慮した取組みがある。家族へは、契約時に書面にて説明・同意が行われている。	急斜面というホームの立地上致し方ないことは理解出来ますが、ハード面及び職員の心理面で、玄関の施錠を常態化させないような取組みと働きかけを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関しての苑内研修に参加し、理解に努めている。日常支援の中で気になる行為があれば、小さいうちに職員同士注意し、防止に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も日常生活自立支援事業の利用者がいる為、事業担当者との連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。苑内勉強会を開き、成年後見制度や日常生活自立支援事業の学習を行った。	日常生活自立支援事業の利用者が3名入居中であり、制度の適切な活用に取り組んでいる。職員に対しては、勉強会にて学ぶ機会がある。家族に対しては、必要に応じての説明である。	今後の支援の一角を担う重要な制度であることから、必要時の説明に留まらず、契約時や運営推進会議時を利用して制度等についての情報提供の機会を持つなど、高齢者の権利を守るための取組みを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時にはその以前より詳しく説明したり、不安や疑問点などないか尋ね、納得してもらってから契約や解除をしている。途中、改定等の際も書面にて全家族に理解、納得を頂いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が日頃の会話の中で意見を引き出すことを中心に市より来て頂いている介護相談員に利用者からの要望などを聞いてもらうようにしている。また意見箱を1階に設置し、活用している。	玄関先への意見箱の設置、家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、毎月の担当職員からの手紙の送付などを通じて、家族の意見や思い等の表出に努めている。出された意見や思い等は、介護計画書に反映させるなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を毎月のフロア長会議やカンファレンス会議で聞くようにしている。内容も検討し出来る限り反映させている。意見箱を1階に設置し、活用している。	毎月のフロア会議にて、職員が自由に意見を述べる事ができる。利用者のケアに対して、職員間でディスカッションを行いケアに反映させるなど、有意義なフロア会議となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績が、給与にも反映するよう努めている。就労時間にも配慮した資格手当等も随時見直し、よりよい職場環境になるよう努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては人間性を重視している為、性別や年齢で排除しないようにしている。従事する職員に関しても本人の要望等を出るだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。	職員の採用に関しては、なんらの制限は設けておらず、人間性を重視しての採用である。各担当は、職員で話し合って決めており、資格取得に向けての勉強会が行われるなど、職員の得意分野を發揮できるような取組みや支援体制がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権にかかわらず、人権等の問題について、その歴史的背景や人権にかかわる話を主体に、定期的に資料を配布し、理解を深めて行くようにしている。	留学生のアルバイト雇用を通じて、職員の人権意識の啓発を行っている。様々な人権等についての情報を収集し、職員間で回覧を行い、人権学習や啓発に取り組むなど、職員の人権意識を喚起するような取組みがある。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	つつじ苑の全体での勉強会を今期より始めた。また各苑での小研修も行なっている。経験また力量に応じ研修を受講してもらい、また外部研修は希望をつのり参加を促している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービスの生活圏域事業所交流会に参加し同業者との意見交換で参考にしてサービスの質を向上させる取組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点より本人の思いを受け止めるために自宅訪問をしたり、本人に施設を見ていただき、支援の内容も十分に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より何度も家族と連携を取り情報交換の場を重ね不安に思っていることや、疑問点等を聞き、受け止め、信頼関係を築いている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、担当ケアマネージャー、ソーシャルワーカーやその他の関係機関などと話し、必要としている支援を見極めるようにしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全介助の利用者が増え、職員の数が不足の状態を利用して介護される一方の立場に置きがちになりつつあるが、職員同士注意し合い、利用者をつきとるから介護するように努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の手紙で御本人の様子を知らせ、イベントの際は招待している。 面会時等で家族と共に考える時間をもち、利用者を支えている。運営推進会議にも参加し、意見を述べて頂いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を大事にし、行きつけの美容室等へ定期的にお連れしている。家族への理解も頂き、満足される支援ができる様努めている。	お彼岸時期に利用者宅へ赴き、お供え物を作り御仏壇へ捧げたり、衣替え時に利用者宅への一時帰省、信仰する宗教の支援など、馴染みの習慣や場所等への継続支援がある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し、席の配置を決めている。そのことで、利用者同士の声かけや気遣いが生まれている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、家族に状況を聞いた後、病院へ面会に行き、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活を見つめ、利用者の希望や意向の把握に努めている。またその希望にも利用者主体のサービスに心がけている。	利用前の面談や施設見学、日々の会話を通じて本人の思いや意向を把握し、カンファレンスやケース記録等にて共有している。	利用者が日常の中で発している様々なサインを見逃さず、サインの中に隠れている本人の思いの把握に努め、職員間で共有を行い、利用者の心に寄り添い、利用者の今を受止め、利用者を尊重したケアへの取組みを期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に伺い、記録として残している。又、日頃の会話から得た情報も記録の保存に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人でバイタルチェックの回数を決めている。行動を共にする事により状況の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者等の意見を聞き利用者一人ひとりにあった介護計画を作成している。	利用者毎のケース記録、家族との面談、担当職員によるアセスメント、3ヵ月毎のモニタリング結果を基に、カンファレンスにて協議・検討を行い、介護計画の作成が行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、観察を元に月1度のカンファレンス会議で個人個人について検討している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望等に出来る限り対応できるように柔軟な支援を行なっている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、消防署等と協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先している。受診の際には日頃の状態を報告し連携を図りながら支援している。	受診・送迎要員を配置しており、今までのかかりつけ医や専門病院への受診等の支援がある。ホーム協力病院の月に1度の往診の他に、24時間の緊急時の往診や相談対応など、密な連携が図られている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録に加えて、異常時には連絡をとり、指示をもらって適切な対応が受けられるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の混乱が少ないように医療機関に情報提供をすると共に家族の代弁者として希望を伝える。また、定期的に面会し医師や看護師との情報交換や相談をし、早期退院に向けて努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師を含めて話し合いの場をもち、ターミナルのやり方を説明し、家族の希望も十分取り入れるようにしている。 家族と同じ気持ちを持ち本人や家族が納得していただける行き届いた看取りを常に目指している。	重度化・終末期ケア対応指針があり、契約時に説明・同意を得ている。本人・家族の意向等の把握及び職員間での共有は、今後の課題である。	運営推進会議でも話題に上っているように「人生をどのように送るか」の決定権は利用者にあります。日々のかかわりの中で利用者の思いの把握と情報共有に努め、利用者の思いを尊重した支援への取組みを期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を受けている。職員の連絡網を作り夜間にも対応できるようにしている。事業所の看護師より応急手当の指導を受けている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の両方を想定した定期的に年2回の火災訓練を行なっている。地域住民参加の避難訓練を運営推進会議で協力を呼びかけ現在計画中である。	消防署立会いによる、年2回の避難訓練の実施がある。スプリンクラーの設置も終わり、非常時の一斉通報システムを検討中である。運営推進会議時に、天災時における協力やホーム避難訓練への参加について話すなどの取組みがある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時や職員同士、日常の利用者さんとの会話の中で、利用者さんの気持ちが傷つかないように気をつけている。	利用者の行動や様子を良く観察した上で利用者を尊重した声かけ、出来ることを見守りながらの支援など、利用者の自尊心に配慮した対応が見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が言いやすい環境をつくり、衣類等選ぶ時は、本人の希望を受け止め支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側を優先しがちであるため、仕事という観念を外して家族の一員として接していきたい。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は本人や家族の希望で職員がカットしている。 行きつけの美容室を希望される場合は、職員同行で支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けは一緒にしているが、準備は出来ていない。誕生日には本人希望に沿ったメニューにしている。	ホーム1階の厨房で調理して、各フロアでの配膳である。利用者と職員と一緒に下膳を行うなど、利用者の出来ることを活かした取組みがある。食事量の記録及び1日1000ccを目安とした水分摂取への取組みと支援がある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援しているが、十分な水分量の確保が難しい。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアに努めている。 希望があれば定期的に口腔ケアを専門医に診てもらっている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェックシート等を利用し、排泄のリズムを考慮して、利用者からのサインを見逃さないようにしてトイレ誘導を行なっている。	チェックシートを利用して、排せつパターンの把握に努め、随時のトイレ誘導が行われている。利用者の尿意のサインを見逃さないように観察を行い、利用者との会話の中からトイレ誘導を行うなどの支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に飲食物で予防し、適度な運動を取り入れている。それでも困難な方は、医師に相談している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限り利用者の希望を尊重し、体調を考慮した上で、会話を楽しみながら、個々に応じた入浴を支援している。	入浴の準備は毎日しており、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対応している。利用者毎に洗身用タオルを準備し、利用者によっては好みのシャンプー類を準備するなど、気持ちよく入浴できるような支援がある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実行している。 入眠前の習慣を尊重している。その日の体調や状態をみて柔軟に対応している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬の処方については処方箋を元に連絡帳や生活日誌に記帳して、職員全員で確認をしている。服薬時は側で見守り、飲み込みまで確認している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の家に咲いた花を持ってきて生け花が好きな方に生けて頂くなど、利用者とのいい関係作りにも努めている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努めているが利用者の方の介護度が高く、一対一の対応となり、なかなか出来ていない。	季節毎の花見、地域行事への参加・見学、その都度の散歩やドライブなど、戸外に出るための支援がある。状況等により頻繁な外出が難しい利用者に対しては、ウッドデッキにて食事を取るなど、ゆっくりと外気に触れるように取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に了解を得、事務所で管理している。買い物を楽しみを味わっていただく為、行事として計画する事もあり、要望に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて対応、支援している。年賀状、暑中見舞いに利用者一言書いていただき家族へ送付している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に季節を味わってもらえるものを飾り、居室には自分で描かれた季節を表すカレンダーを飾っている。 誕生日に季節のお花を飾っている。	各リビングは、自然採光と照明により、適切な明るさが保たれている。フロア内には、ソファのスペースと椅子とテーブルのスペースがあり、ユニット間の行き来は自由ができる。利用者が自由にゆっくりと過ごすための配慮がある。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にソファを置いてちょっと腰を下ろし、ホッと落ち着けるスペースを作り工夫している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな物を中心に飾ってある。 自宅からなじみの物を持ってこられているものはそのまま使用していただいている。家族からの手紙、写真を飾られたり、静かな時間を過ごせるようにしている。	居室内は、写真や趣味の作品、テレビ、タンス、ぬいぐるみなどが持ち込まれており、利用者の人柄を伺わせる居室となっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室の入口やトイレ、洗面所に表示し、少しでも混乱されず、スムーズに自立した生活が送れるよう工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			